

# 令和6年度（2024年度）宮崎支部医療費統計分析 【抜粋版】 （参考資料）

---

2026年1月14日

全国健康保険協会 宮崎支部 企画総務グループ

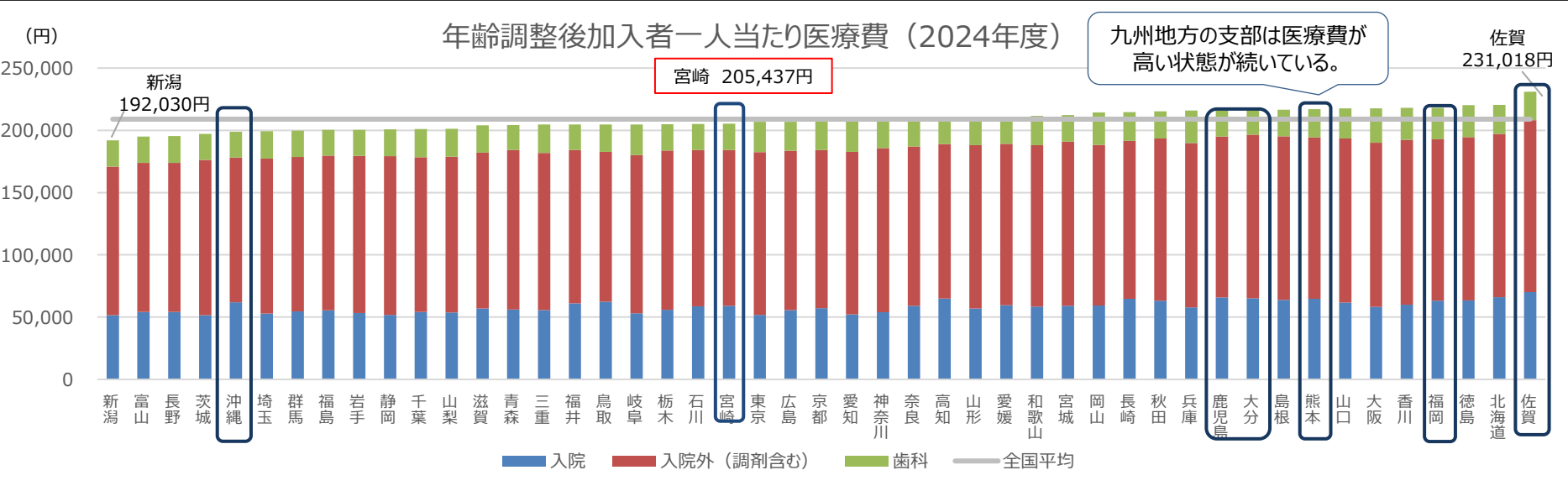
本資料は、全国と比較した宮崎支部の保険給付や医療費の基本的な情報について、2024年度を中心に報告を行うものの抜粋版である。

### 【目次】

項番	項目名	ページ
1	一人当たり医療費の状況	2
2	全国平均との比較	3-4
3	疾病別医療費の状況	5-6

5-1.年齢調整後加入者一人当たり医療費の状況

宮崎支部の2024年度年齢調整後一人当たり医療費は205,437円であった（21位）。最も低い新潟支部が192,030円、最も高い支部は佐賀支部で231,018円だった。九州地方の多くの支部が医療費が高い中、**宮崎支部は全国平均（208,959円）より3,522円低かった。**



（診療種別の年齢調整後一人当たり医療費と順位〈九州・沖縄地方のみ〉）※（ ）内の順位は昇順・医療費が低い順。

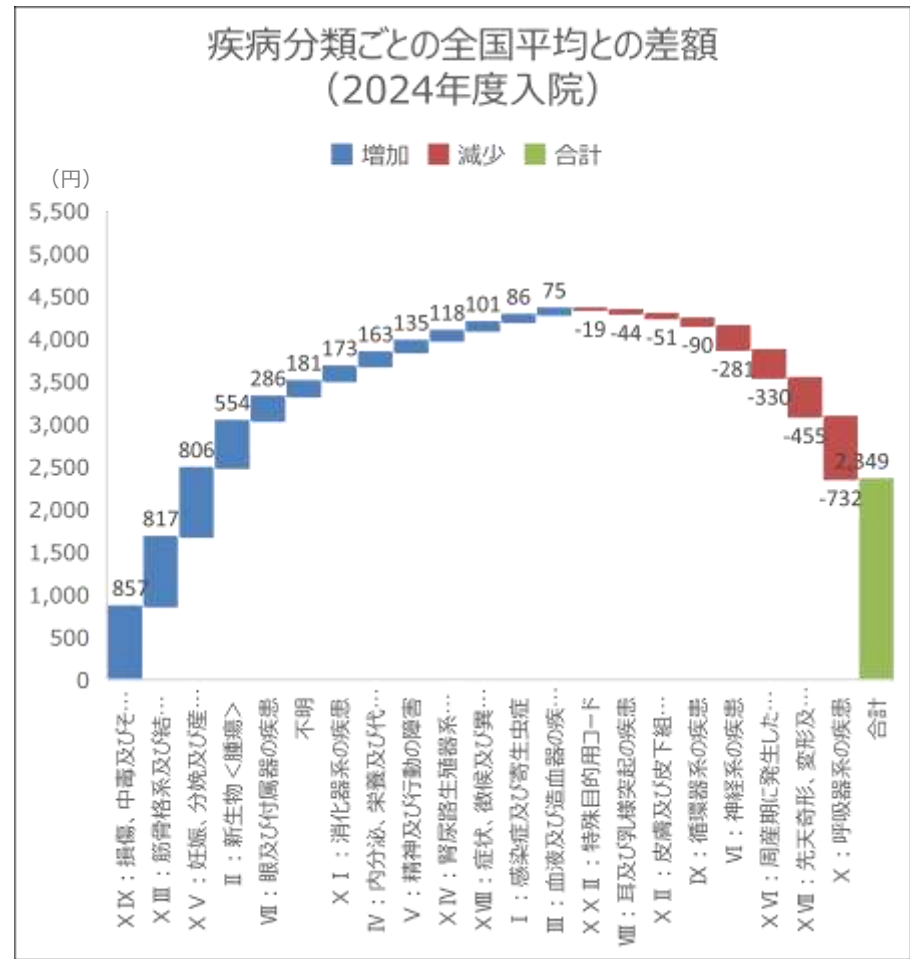
支部コード	支部	入院（順位）	入院外（順位）	歯科（順位）	合計	順位
40	福岡	63,214 (38)	129,689 (31)	25,230 (41)	218,134	(44)
41	佐賀	70,197 (47)	137,899 (47)	22,922 (30)	231,018	(47)
42	長崎	64,781 (42)	126,854 (19)	23,079 (32)	214,713	(34)
43	熊本	64,674 (41)	129,639 (30)	22,730 (28)	217,044	(40)
44	大分	65,243 (44)	131,146 (39)	20,068 (1)	216,457	(38)
45	宮崎	59,130 (28)	125,088 (15)	21,219 (15)	205,437	(21)
46	鹿児島	65,873 (45)	129,183 (28)	21,215 (14)	216,270	(37)
47	沖縄	61,977 (35)	116,256 (1)	20,550 (4)	198,783	(5)

合計は27位から21位に順位を上げた。（2023年度:入院33位、入院外20位、歯科16位）。

● 加入者基本情報、医療費基本情報より。入院外に薬剤含む。（以下同じ）

# 6-1全国平均からの乖離状況

一人当たり入院医療費では、全国平均とのプラス乖離が最も大きい疾病は「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、次に「筋骨格系及び結合組織の疾患」であり、2つの疾病が宮崎の入院医療費を押し上げていることが確認できた。



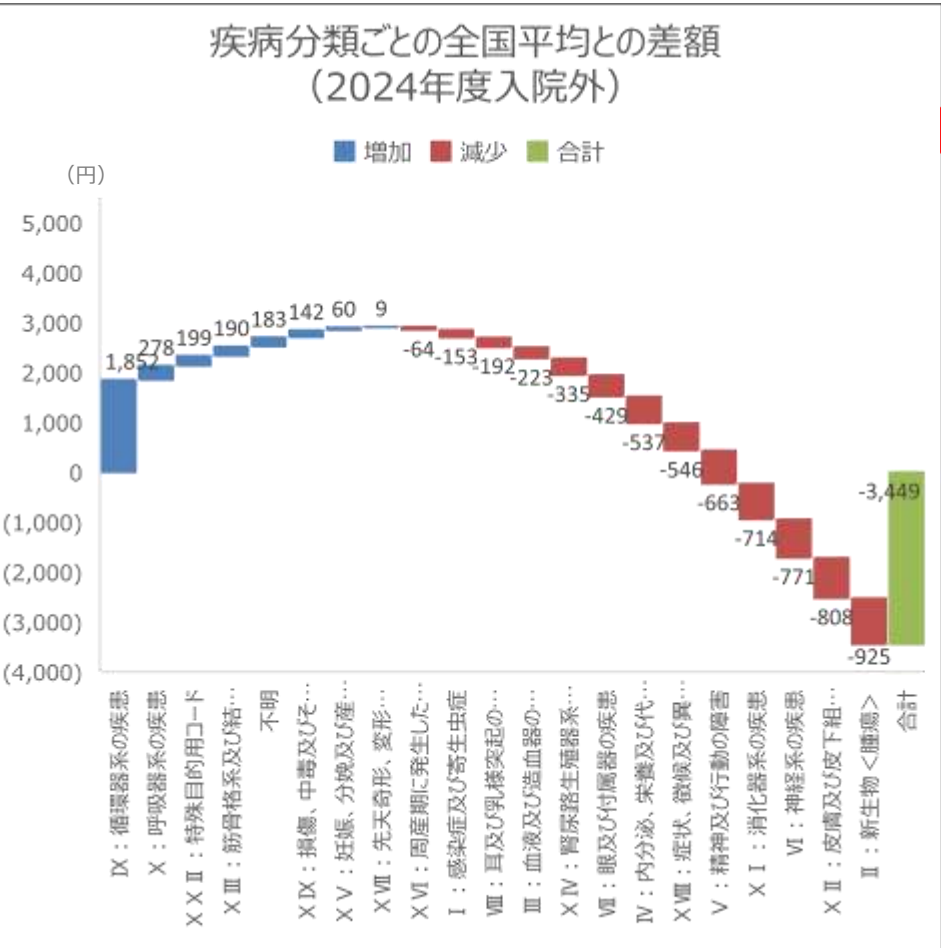
※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

(単位：円)

疾病大分類	2024年度 宮崎	2024年度 全国	全国平均 との乖離額
I : 感染症及び寄生虫症	1,009	922	86
II : 新生物<腫瘍>	13,975	13,421	554
III : 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	556	481	75
IV : 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,285	1,122	163
V : 精神及び行動の障害	2,029	1,894	135
VI : 神経系の疾患	2,211	2,493	-281
VII : 眼及び付属器の疾患	1,283	997	286
VIII : 耳及び乳様突起の疾患	238	282	-44
IX : 循環器系の疾患	10,581	10,671	-90
X : 呼吸器系の疾患	2,232	2,964	-732
X I : 消化器系の疾患	4,221	4,048	173
X II : 皮膚及び皮下組織の疾患	382	433	-51
X III : 筋骨格系及び結合組織の疾患	5,733	4,916	817
X IV : 腎尿路生殖器系の疾患	2,241	2,123	118
X V : 妊娠、分娩及び産後	2,820	2,015	806
X VI : 周産期に発生した病態	1,429	1,759	-330
X VII : 先天奇形、変形及び染色体異常	879	1,334	-455
X VIII : 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	420	319	101
X IX : 損傷、中毒及びその他の外因の影響	5,112	4,255	857
X X II : 特殊目的用コード	130	149	-19
不明	365	185	181
合計	59,130	56,781	2,349

6-1全国平均からの乖離状況

一人当たり入院外医療費は、全国平均とのプラスの乖離が最も大きい疾病は「循環器系の疾患」であり、次に大きい疾病は「呼吸器系の疾患」であった。一方、「新生物<腫瘍>」はマイナスの乖離が最も大きく、入院外医療費全体では、全国平均を下回った。



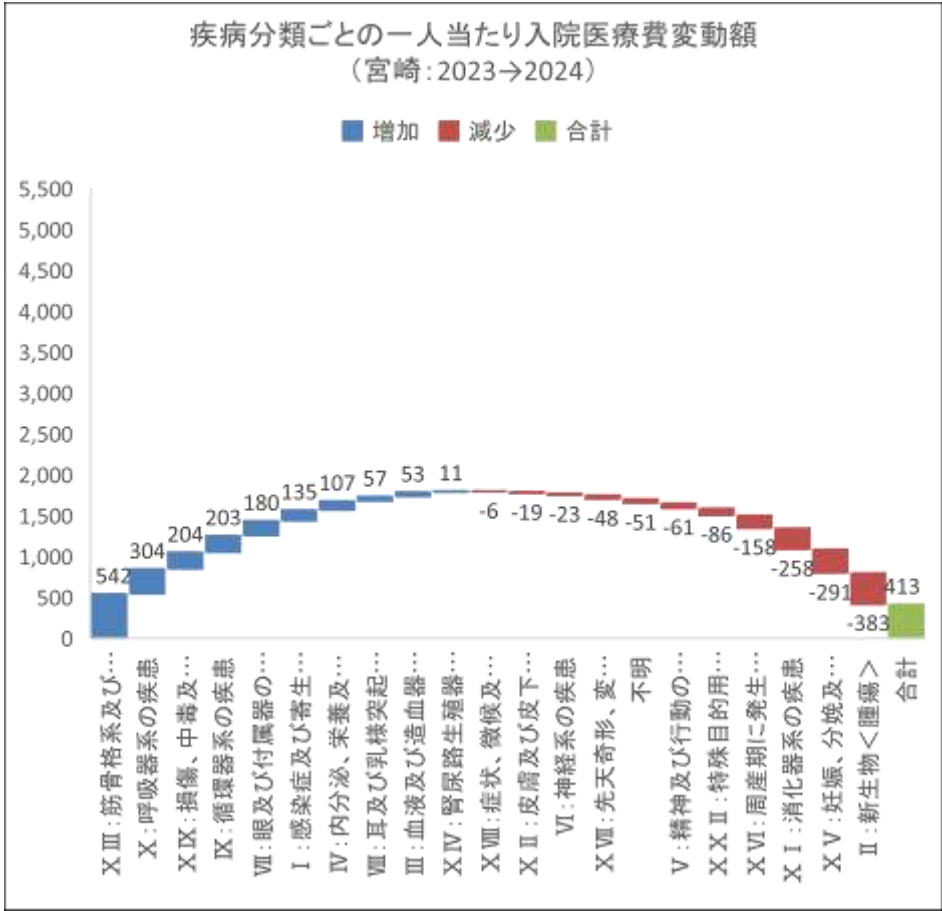
※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。

(単位: 円)

疾病大分類	2024年度 宮崎	2024年度 全国	全国平均 との乖離額
I : 感染症及び寄生虫症	3,762	3,915	-153
II : 新生物<腫瘍>	12,807	13,733	-925
III : 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,303	2,526	-223
IV : 内分泌、栄養及び代謝疾患	13,803	14,341	-537
V : 精神及び行動の障害	5,347	6,010	-663
VI : 神経系の疾患	4,170	4,941	-771
VII : 眼及び付属器の疾患	5,132	5,561	-429
VIII : 耳及び乳様突起の疾患	1,197	1,389	-192
IX : 循環器系の疾患	15,191	13,340	1,852
X : 呼吸器系の疾患	18,371	18,092	278
X I : 消化器系の疾患	7,505	8,219	-714
X II : 皮膚及び皮下組織の疾患	7,341	8,149	-808
X III : 筋骨格系及び結合組織の疾患	9,680	9,491	190
X IV : 腎尿路生殖器系の疾患	8,415	8,751	-335
X V : 妊娠、分娩及び産じょく	296	236	60
X VI : 周産期に発生した病態	283	348	-64
X VII : 先天奇形、変形及び染色体異常	1,149	1,140	9
X VIII : 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの	2,070	2,615	-546
X IX : 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,303	3,161	142
X X II : 特殊目的用コード	1,678	1,479	199
不明	1,283	1,100	183
合計	125,088	128,537	-3,449

6-3.医療費の疾病別年度間の増減比較

疾病別の一人当たり入院医療費の増減を確認すると、昨年度大幅に増加していた「新生物<腫瘍>」が減少している。〈参考：12,841円（2022年度）〉「筋骨格系及び結合組織の疾患」が最も増加している。



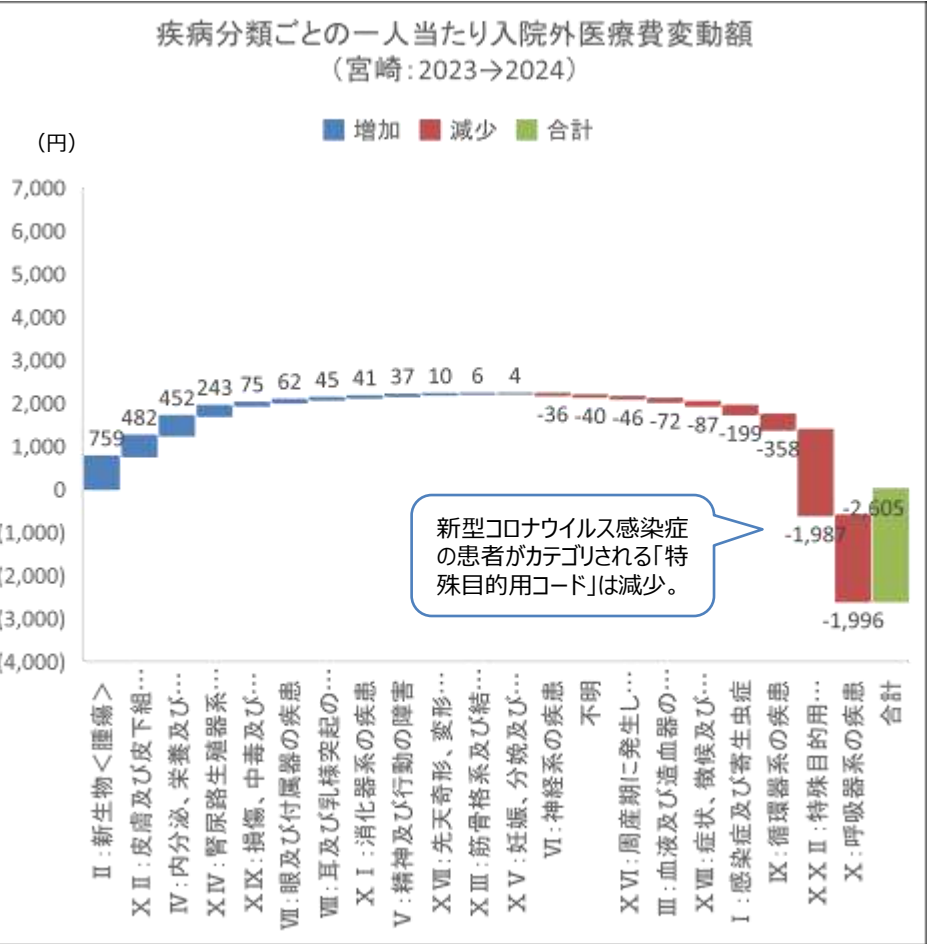
疾病大分類	2023年度	2024年度	差額
I：感染症及び寄生虫症	874	1,009	135
Ⅱ：新生物<腫瘍>	14,358	13,975	-383
Ⅲ：血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	503	556	53
Ⅳ：内分泌、栄養及び代謝疾患	1,178	1,285	107
Ⅴ：精神及び行動の障害	2,090	2,029	-61
Ⅵ：神経系の疾患	2,235	2,211	-23
Ⅶ：眼及び付属器の疾患	1,103	1,283	180
Ⅷ：耳及び乳様突起の疾患	180	238	57
Ⅸ：循環器系の疾患	10,378	10,581	203
X：呼吸器系の疾患	1,928	2,232	304
XⅠ：消化器系の疾患	4,479	4,221	-258
XⅡ：皮膚及び皮下組織の疾患	401	382	-19
XⅢ：筋骨格系及び結合組織の疾患	5,190	5,733	542
XⅣ：腎尿路生殖器系の疾患	2,230	2,241	11
XⅤ：妊娠、分娩及び産じょく	3,112	2,820	-291
XⅥ：周産期に発生した病態	1,587	1,429	-158
XⅦ：先天奇形、変形及び染色体異常	927	879	-48
XⅧ：症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	426	420	-6
XⅨ：損傷、中毒及びその他の外因の影響	4,907	5,112	204
XⅩⅡ：特殊目的用コード	216	130	-86
不明	416	365	-51
合計	58,717	59,130	413

※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。



6-3.医療費の疾病別年度間の増減比較

疾病別の一人当たり入院外医療費の増減を確認すると、「呼吸器系の疾患」は大幅に減少した。「新生物(腫瘍)」は、全国平均と乖離ではマイナスであったが、年度間では最も増加した。



疾病大分類	2023年度	2024年度	差額
I : 感染症及び寄生虫症	3,961	3,762	-199
II : 新生物<腫瘍>	12,048	12,807	759
III : 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2,375	2,303	-72
IV : 内分泌、栄養及び代謝疾患	13,352	13,803	452
V : 精神及び行動の障害	5,310	5,347	37
VI : 神経系の疾患	4,206	4,170	-36
VII : 眼及び付属器の疾患	5,070	5,132	62
VIII : 耳及び乳様突起の疾患	1,151	1,197	45
IX : 循環器系の疾患	15,550	15,191	-358
X : 呼吸器系の疾患	20,366	18,371	-1,996
X I : 消化器系の疾患	7,464	7,505	41
X II : 皮膚及び皮下組織の疾患	6,858	7,341	482
X III : 筋骨格系及び結合組織の疾患	9,675	9,680	6
X IV : 泌尿路生殖器系の疾患	8,173	8,415	243
X V : 妊娠、分娩及び産じょく	293	296	4
X VI : 周産期に発生した病態	329	283	-46
X VII : 先天奇形、変形及び染色体異常	1,139	1,149	10
X VIII : 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,156	2,070	-87
X IX : 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,229	3,303	75
X X II : 特殊目的用コード	3,665	1,678	-1,987
不明	1,323	1,283	-40
合計	127,693	125,088	-2,605

※端数処理の都合上、合計が一致しない場合がある。